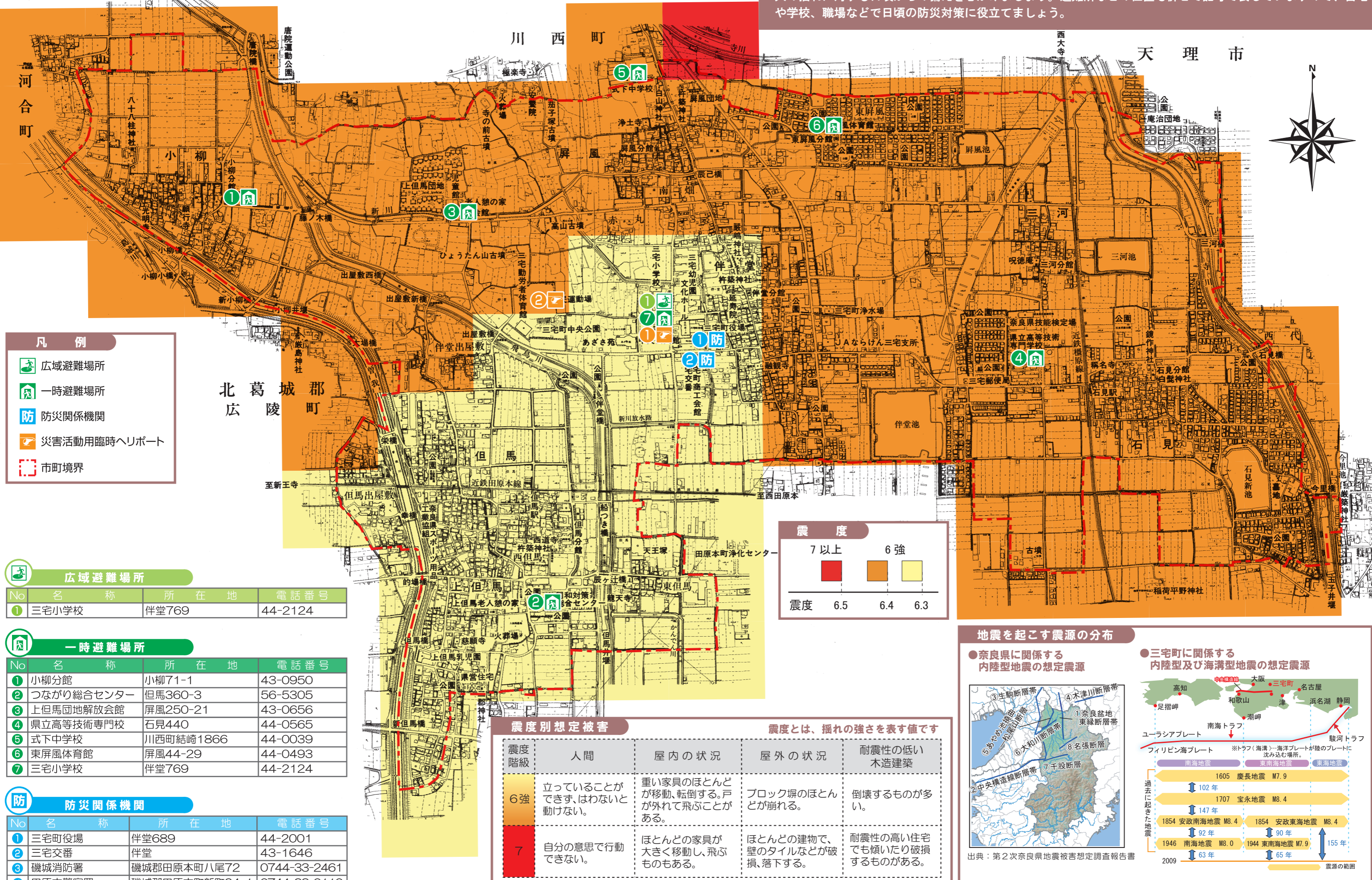


# 三宅町 揺れやすさマップ

0 100 500 1000m  
1 : 10,000

揺れやすさマップは、三宅町への影響が大きいと思われる「奈良盆地東縁断層帯」「中央構造線断層帯」および「大和川断層帯」を選び、三宅町を250mの格子に分割し、格子ごとに地表での震度の予測を行い、それらの震度の最も大きい物を重ね合わせて、それぞれの地域で生じる恐れのある最大の揺れを表したものです。したがって、実際に地震が発生した場合には、予測されたおりの震度の揺れが生じるとは限りませんが、最大の揺れに対する日頃からの備えを心がけましょう。避難所などの位置も併せて記号で表していますので、自宅や学校、職場などで日頃の防災対策に役立てましょう。



- 凡例**
- 広域避難場所
  - 一時避難場所
  - 防災関係機関
  - 災害活動用臨時ヘリポート
  - 市町境界

**広域避難場所**

No	名称	所在地	電話番号
1	三宅小学校	伴堂769	44-2124

**一時避難場所**

No	名称	所在地	電話番号
1	小柳分館	小柳71-1	43-0950
2	つながり総合センター	但馬360-3	56-5305
3	上但馬団地解放会館	屏風250-21	43-0656
4	県立高等技術専門学校	石見440	44-0565
5	式下中学校	川西町結崎1866	44-0039
6	東屏風体育館	屏風44-29	44-0493
7	三宅小学校	伴堂769	44-2124

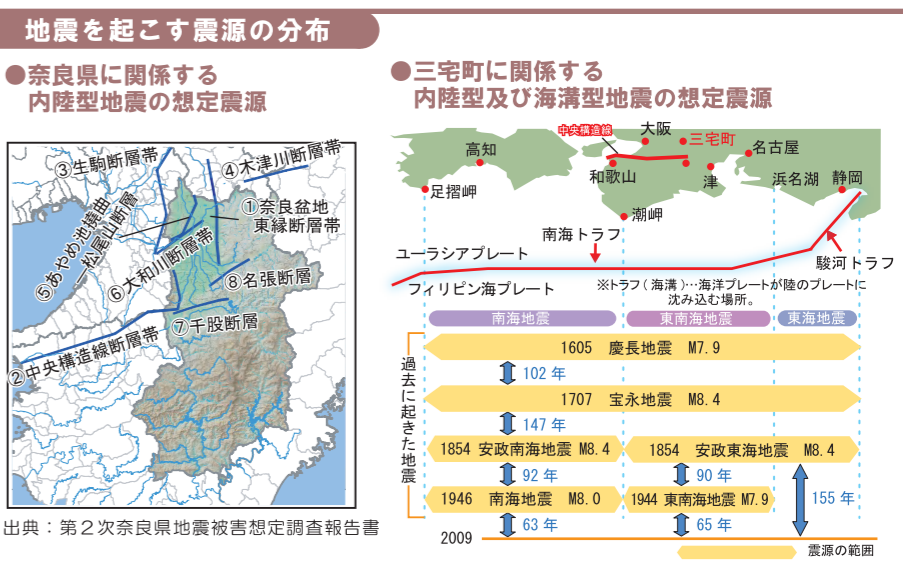
**防災関係機関**

No	名称	所在地	電話番号
1	三宅町役場	伴堂689	44-2001
2	三宅文書	伴堂	43-1646
3	機械消防署	磯城郡田原本町八尾72	0744-33-2461
4	田原本警察署	磯城郡田原本町新町24-1	0744-33-0110

**震度別想定被害**

震度階級	人間	屋内の状況	屋外の状況	耐震性の低い木造建築
6強	立っていることができない、はわないと動けない。	重い家具のほとんどが移動、転倒する。戸が外れて飛ぶことがある。	ブロック塀のほとんどが崩れる。	倒壊するものが多い。
7	自分の意思で行動できない。	ほとんどの家具が大きく移動し、飛ぶものもある。	ほとんどの建物で、壁のタイルなどが破損、落下する。	耐震性の高い住宅でも傾いたり破損するものがある。

震度とは、揺れの強さを表す値です



**災害活動用臨時ヘリポート**

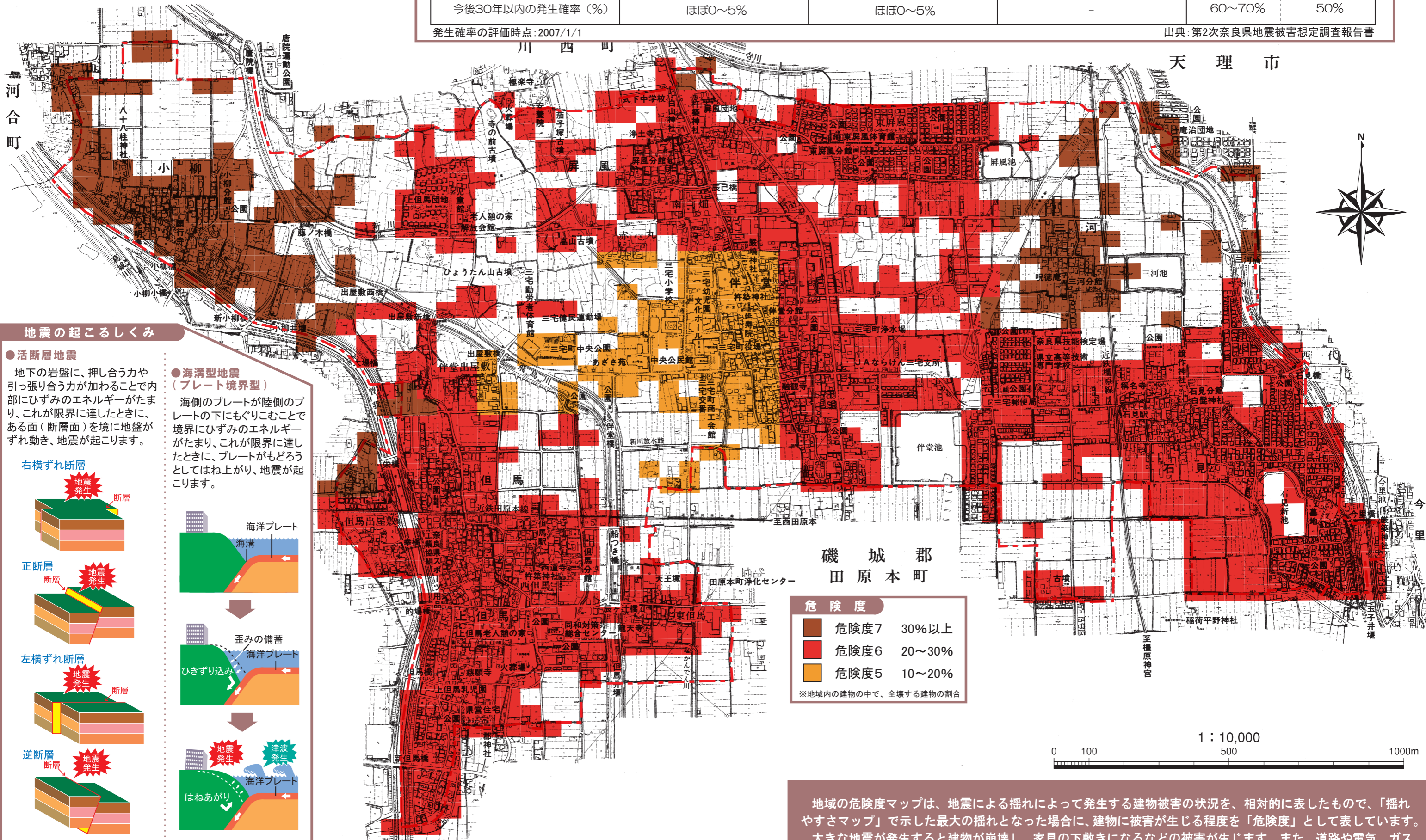
No	名称	所在地	電話番号
1	三宅小学校	伴堂769	44-2124
2	三宅健民運動場	伴堂1019	

**想定地震と震源**

地震名	マグニチュードとは、地震のエネルギーを表す値です。			
	奈良盆地東縁断層帯	中央構造線断層帯	大和川断層帯	東南海地震 南海地震
マグニチュード	7.5	8.0	7.1	8.2 同時 8.6
断層の長さ(位置)	京都市山科区～奈良県桜井市 35km	金剛山地東縁～和歌山脈南縁(和歌山市付近) 74km	大和川支流沿いに、西南(柏原市)～北東(大和郡山市) 22km	南海トラフ
今後30年以内の発生確率(%)	ほぼ0～5%	ほぼ0～5%	-	60～70% 50%

発生確率の評価時点：2007/1/1

出典：第2次奈良県地震被害想定調査報告書



**地震の起こるしくみ**

●活断層地震  
地下の岩盤に、押し合う力や引っ張り合う力が加わることで内部にひずみのエネルギーがたまり、これが限界に達したときに、ある面(断層面)を境に地盤がずれ動き、地震が起こります。

●海溝型地震(プレート境界型)  
海側のプレートが陸側のプレートの下にもぐりこむことで境界にひずみのエネルギーがたまり、これが限界に達したときに、プレートがもどるようにはね上がり、地震が起こります。

右横ずれ断層  
正断層  
左横ずれ断層  
逆断層

海洋プレート  
歪みの備蓄  
ひきずり込み  
はねあがり

**危険度**

危険度7	30%以上
危険度6	20～30%
危険度5	10～20%

※地域内の建物の中で、全壊する建物の割合

地域の危険度マップは、地震による揺れによって発生する建物被害の状況を、相対的に表したもので、「揺れやすさマップ」で示した最大の揺れとなった場合に、建物に被害が生じる程度を「危険度」として表しています。大きな地震が発生すると建物や崩壊し、家具の下敷きになるなどの被害が生じます。また、道路や電気、ガス、水道などのライフラインの寸断、火災の発生など、大きな被害に発展する恐れがあります。大きな地震から人命や財産を守るためには、住宅などの耐震化が必要です。

# 三宅町 地域の危険度マップ